あかまつ
vol.151

発行日　令和3年10月1日
発　行　社会福祉法人 天竜厚生会
発行者　山本 たつ子
編　集　総務部 総務課

あかまつ

focus

- あかいし学園
  開園50周年を迎えて
- 天竜厚生会研修センターでは
  福祉教育出張講義を行っています!

あかいし学園50周年記念誌
（関連記事:3ページ）

天竜厚生会研修センターでは福祉教育出張講義を行っています!
（関連記事:5～6ページ）

社会福祉法人
天竜厚生会

vol.151
2021.10.1

CONTENTS

目次	1
常務理事就任のご挨拶	2
あかいし学園　開園50周年を迎えて	3
ご利用者の安心、安全を求めて　～新型コロナワクチン接種～	4
天竜厚生会研修センターでは福祉教育出張講義を行っています！	5～6
令和３年度　「天竜厚生会納涼花火大会」を開催しました	7
JICA事業「カンボジア王国『遊びや環境を通した学び』に基づく幼児教育カリキュラム実践のための基礎構築事業」への協力について シャンティ国際ボランティア会（SVA）現地スタッフからのレポート	8
創立70周年記念　～記念事業の紹介～	9～10
施設の活動紹介	11～12
職員春季研修（コロナに負けぬ質と専門性を求めて）	13
相談支援事業所きずなの移転について	13
委託事業から繋がった地域の企業　“物づくりの楽しさを教えていただいています”	14
仕事の魅力紹介　法人全体に目を向ける仕事	15
仕事の魅力紹介　「あたたかい場所」であるために	15
苦情受付の公表について（定期報告）	16
善意の皆さま	17～18
運動広場で体を動かしリフレッシュしてみませんか？	裏表紙
天竜厚生会創立70th記念対談	裏表紙

［あかまつ編集後記］

本号では、周年記事として天竜厚生会創立70周年記念事業（p.9-10）、あかいし学園開園50周年（p.3）を掲載しています。また、コロナ禍においても開催方法を工夫し実施した花火大会（p.8）、福祉教育出張教育（p.5-6）に関連した記事を掲載しておりますので、是非ご覧いただければと思います。

編集委員

常務理事就任のご挨拶

常務理事兼財務部長
藤原　裕彦

令和３年６月29日に開催されました社会福祉法人天竜厚生会定時評議員会におきまして理事として承認をいただき、その後に開催されました理事会におきまして常務理事として承認をいただき就任することとなりました。折しも昨年は天竜厚生会創立70周年を迎え、今年度は次の10年に向けたスタートの年となります。このような時期に重責を担うこととなり唯々身の引き締まる思いではありますが、次の時代に向けた架け橋の一人となることができるように、私に課せられた役割を理解しながら歩みを進めて参りたいと思います。

私は、昭和58年大学卒業を機に生まれ故郷の旧天竜市（現浜松市）に戻り、天竜厚生会にご縁をいただき就職いたしました。これまでに障がい者、高齢者の入所・通所施設のほか、総務課、会計課、給食センター、東京への出向など様々な部署で様々な経験をさせていただきました。私が就職した頃は、天竜厚生会の草創期に活躍された7人の同志であります山村三郎元事務局長、大石勝馬元事務局次長、沢口政次元施設課長をはじめとした皆様と接する機会もあり、その後も内山信一元理事長、塩崎信夫元理事長の存在も身近に感じながら仕事をする機会をいただきましたことは、私自身の中では貴重な経験であり財産となっております。その当時から今日に至るまで、助け合い、励ましあいながら日夜業務を遂行してきた多くの人との出会いも、時に厳しい教えを受けたことも、重度知的障がいのご利用者と過ごした濃厚な時間も、特別養護老人ホームで看取りを通じて学んだことなど、いずれも貴重な経験であり、これまで仕事を進めるうえで私自身の価値判断基準に大きな影響を与えていただきました。これまで経験させていただいたことを大切にしながら、これからも仕事に生かしていくことができればと思います。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世界的規模で各所に甚大な影響を与え続けております。また、急速に進展する少子高齢化、生産年齢人口減少への対応などの課題とも相まって、これまでの価値観や常識にとらわれない仕事や暮らしの在り方について問われ始めており、その波は私たちの仕事にも確実に押し寄せてきております。会議システムの構築やWebによる採用選考の実施、見守り支援機器の普及、タブレット端末等を活用したデータ管理システムの導入、ご利用者とご家族の面会方法の工夫とこれらに伴う通信環境の整備などIT化の促進は感染拡大防止のみならず、仕事の効率化の観点からも今後、益々重要性を増してきます。こうしたインフラ整備に留まらず、天竜厚生会として地域ニーズを踏まえた必要な整備が行われていくための見通しを持った事業計画の立案と実施、事業継続のための適正利益の確保に少なからず貢献できますように、これからも各部署、関係する皆様との連携を深めて参ります。

これまで、先人たちが70年の歳月をかけて多くの困難と向き合いながら、ここまで育てあげてきた天竜厚生会を次の世代へ確実に繋げていくためにも、新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、多くの課題に向かっていくこれからの時代には、天竜厚生会の基本理念「九十九匹はみな帰りたれど、まだ帰らぬ一匹の行方訪ねん」の浸透と実践は益々重要になってくると考えます。多くの部署で多くの職員が基本理念の下で価値観を共有しながら、日々ご利用者と向き合い、時に困難なことに向き合いながらも前に進むことができますように。また、天竜厚生会に関わりのある多くのご利用者のためにも、地域で様々な生きづらさを持って暮らしている方々のためにも天竜厚生会ができることを推し進めていけるように、微力ながら職務に邁進してまいりますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

あかいし学園　開園50周年を迎えて

あかいし学園施設長
鈴木　善道

当施設は昭和45年４月に重度障がい児に生活訓練の場を提供するという目的で、精神薄弱児施設として設置されました。それから時代の流れの変化に合わせ、昭和56年４月に種別変更し、重度障がい者を対象とした精神薄弱者更生施設として再出発し、現在は障がい者支援施設として運営しています。

そして平成31年に当施設は開園50周年を迎えることが出来ました。この記念すべき開園50周年を祝して開園記念日にあたる平成31年４月29日にはご家族、ボランティアを多数招いて開園記念祭を盛大に執り行う予定でしたが、その年の２月から流行した新型コロナウイルス感染症の影響もあり、止む無く規模を縮小し、ご利用者、職員のみで「ミニ開園祭」を開催しました。職員による出し物やご利用者参加のカラオケ大会、そして50周年記念特製ケーキを召し上がっていただき、ご利用者には大いに楽しんでいただくことが出来ました。

「あかいし学園保護者会」の皆様からは、開園50周年記念品として「録画機能付き４Ｋテレビ」を寄贈していただきました。末永く大切に使用させていただきます。

また、平成31年度の１年を費やし、50年間の歴史や思い出を振り返り、次の世代へ継承出来るように「あかいし学園50周年記念誌」の作成に取り組みました。

作成にあたっては当施設内で編集委員会を設け、年間スケジュールを作成し、企画から写真の選定、編集、制作を経て、令和２年３月に完成させることが出来ました。記念誌内の「挨拶文」につきましては当法人理事長と当法人評議員でもある細川氏、保護者会会長高柳氏に依頼し、「これまでの思い出」につきましてはご家族や職員OB、OG、現職員に協力を頂き執筆していただきました。執筆内容を拝読する中で、当施設の開園当時から現在までに各執筆者がそれぞれ関わっていた頃の楽しい思い出や苦労した思い出、中には心がほっこりするような思い出も寄稿されており、様々な過去の出来事を知ることが出来ました。

50周年を迎えるにあたっては、開園当初から関わってきた多くの職員の尽力や当施設を支えて下さった地域、行政など様々な方の協力、そして温かく見守って下さった保護者の皆様のおかげです。

50年という歳月の中で頂いたご支援、ご厚情に深く感謝するとともに、これからも当施設の運営並びにご利用者へのより良い支援に邁進していきます。今後ともどうぞよろしくお願いします。

▲あかいし学園50周年記念誌

▲児童施設時の発表会の様子（昭和54年）

▲成人祝賀会の様子（昭和60年）

ご利用者の安心、安全を求めて
～新型コロナワクチン接種～

健康医療課 兼
天竜厚生会診療所
ソーシャルワーカー
木藤　絢乃

国内での新型コロナワクチン接種が開始されたのは、令和３年２月のことでした。医療従事者の先行接種から始まり、高齢者、基礎疾患保有者、一般の方へと順次接種対象が拡大されています。

当法人でも、令和３年３月よりワクチン接種の準備を開始し、天竜厚生会診療所と龍山診療所でご利用者や外来患者様、職員に対するワクチン接種が実施できるよう体制を整えて参りました。他の定期予防接種や季節性予防接種とはワクチンの発注方法や保管方法、ワクチン接種後の事務処理に至るまでのすべてが従来の方法とは異なり、関わる職員一同戸惑いを覚えましたが、ご利用者の安心と安全を守るため、検討を重ね準備を進めて参りました。

『ご利用者へのワクチン接種』

浜松市内の高齢者に対する個別医療機関での新型コロナワクチン接種が開始となったのは５月17日週からでした。当法人でも５月19日より、高齢者施設ご利用者に対するワクチン接種を開始し、障がい者施設、救護施設ご利用者へと順次ワクチン接種を進めて参りました。各施設へは天竜厚生会診療所より医師２名、看護師２名、事務員２名が伺い、対応にあたり、大きな混乱や重大な副反応は確認されず経過し、8月20日を以ってご利用者へのワクチン接種は終了となりました（一部遠方施設を除く）。これに安心することなく、引き続き感染対策に努めて参ります。

▲ご利用者ワクチン接種の様子

『龍山診療所でのワクチン接種』

浜松市天竜区龍山地域にはワクチン接種を行える医療機関が龍山診療所しかなく、希望する住民の方々へどのようにワクチン接種を実施するか、龍山協働センターの職員の皆様にもご協力いただき、検討を重ねました。

通常の診療の合間にワクチン接種を実施することも考えましたが、医師の確保が困難であったため、日曜日での実施体制を整えました。６月20日と６月27日にそれぞれ第１回目のワクチン接種を実施し、７月18日を以って、龍山地域でのワクチン接種は無事終了となりました。

『職域接種』

ワクチン接種のスケジュールを作成するうえで最も懸念されたのが職員に対する接種でした。１回の発注で分配されるワクチンには上限が定められており、希望する職員に対する接種は当初、11月頃までかかるのではと予想されておりました。

そのような折に、政府による武田／モデルナ社製ワクチンを使用した職域接種の申請受付が開始されました。当法人でもすぐに検討をし、申し込みを行いました。その後、日程の確保、職員への広報、医師のスケジュール調整等を行い、７月13日より職域接種を開始いたしました。職員等2,000人に対するワクチン接種を進め9月27日で終了となりました。

▲職域接種の様子

新型コロナワクチンに関する準備を開始した３月末から現在に至るまで、目まぐるしい毎日でした。途中、ファイザー社製ワクチンの供給が不足しているという情報もあり、不安を覚えましたが、様々な方にご尽力いただき必要数を確保することができました。最後になりますが、ワクチン接種に関してご協力をいただいた先生方をはじめ、ご利用者、ご家族、職員、すべての皆様に対して心より感謝申し上げます。

天竜厚生会研修センターでは福祉教育

天竜厚生会が実施している福祉教育では「福祉ってなんだろう」をテーマに小学生から社た講義を行っています。本来であれば各団体様に当法人までお越し頂き、施設実習と講義ただいていました。しかし、現在新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、施設実習の様々なプログラムを実施しています。今回はその一部を紹介します！

リモート講義

静岡県外の団体様にもZoomを利用し、「基礎編」「当事者講話」等、座学を中心とした教育プログラムを展開しています。

基礎編

「ふくし」=「ふだんのくらしのしあわせ」をキーワードに「ふくし」とは自分を含めた地域で暮らしている全ての人達が関わるものであり、その中で自分にできることはなにかという気付きを促します。

当事者講話

実際に現地に赴いたり、Zoomを利用したりして実際の生活の様子をお伝えします。本人仕様の車両の見学や、普段の暮らしについて写真を交えながら説明をします。受講生からは、見慣れない車両への驚きの声や、様々な質問をいただいています。

出張講義を行っています!

会人と幅広い層に対し、そのステージに合わせを組み合わせた体験を通じて「福祉」に触れてい受入れが困難となったことから課員が出張し、

職業講話

福祉専門職の社会福祉士、介護福祉士、保育士資格を保持する職員から「仕事の内容」「この仕事を選んだ理由」「資格取得の段取り」等について、仕事の中身や「学ぶ」「働く」等のキャリアイメージの創出に繋げます。

実践編（車いす体験・アイマスク体験）

体験を通して高齢者・障がい者の生活に触れ、不自由さ＝「できないこと」を感じるだけでなく、どのような配慮や工夫があれば「できないこと」が「できる」ようになるのかを考えていきます。

受講者の声（一部抜粋）

●福祉ということばがすてきだと思いました。だれもがこんな（ふだんのくらしのしあわせ）生活になるといいと思いました。（小学校４年生）

●みんなが暮らしやすい社会を作り出す福祉にまつわる仕事をしてみたいなと思いました。（中学校１年生）

●今までは思いやりの心が大切だと思っていた。しかしそれだけではなく、そこから行動に移すことが大切だと感じた。（社会人）

お申込み・お問合せ

福祉サービス課　（平日8：30～17：30）
☎053-583-1123　FAX 053-583-2655

令和3年度「天竜厚生会納涼花火大会」を開催しました

福祉サービス課
ソーシャルワーカー
森川　蓉子

夏恒例の天竜厚生会納涼花火大会は、ご利用者及び地域の方々に感謝の意を込め実施しておりましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。さらに様々な行事が実施できないなか、少しでもご利用者の皆様に楽しんでいただきたいという思いから、今年度は感染予防策を講じたうえで、７月16日（金）に花火大会を開催いたしました。

例年は打揚げ場所付近に観覧場所を設け、ご利用者及び地域の方々が一堂に集まりご覧いただいておりましたが、今年度は密を避けるため、各施設・各地域よりご覧いただきました。

約30分間、打揚げ花火210発とスターマイン2発の花火が夜空を彩りました。ご利用者の頭上で大きく開く花火の光と、空に響きわたる迫力ある音に歓声や拍手が湧き上がりました。

今年度は制限を設けての開催となりましたが、一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し通常開催できることを心より祈っております。

施設ベランダより

近隣地域より

ご利用者さんの声

コロナウイルスの影響で何もできない中、花火を見ることができ元気をもらった。

早くコロナウイルスが終息し、地域住民の人たちも大勢集まってみんなでワイワイ見れる日がくるのを楽しみにしています。

（厚生寮　Ａさん）

ご利用者居室より

花火師さんより一言

コロナ禍で、花火大会の多くが中止となるなか、数少ない花火を見ていただける機会ということで私共花火師もより一層の緊張感をもって打揚に臨みました。

今年は感染対策として、各施設前など客席を分散し、離れた場所から見ていただくため高く上がる花火を揚げる演出にいたしました。

離れた場所での打揚げとなり、皆様の反応を感じにくくなってしまいました。しかし、施設で生活する方や働く方が我々の花火に束の間の癒しを感じてくださったとしたら、それこそが花火師冥利に尽きることです。

一年も早く皆様のおそばで反応を直に感じながら花火を打揚げられる日が来ることを願っております。

田畑煙火株式会社

天竜厚生会がカンボジア王国の幼児教育支援に携わるようになった平成26年度より、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（以下、SVA）との連携・協力体制が始まり、当法人のチームカンボジアがSVAの外部支援団体としてJICA事業に取り組んでいます。今回その実践がどのように現地で活かされているのかをSVAスタッフよりレポートしていただくことになりました。現地の生の声から、当法人が貢献している世界のフィールドを知っていただき、多くの方に興味を持っていただければと思います。

JICA事業「カンボジア王国『遊びや環境を通した学び』に基づく幼児教育カリキュラム実践のための基礎構築事業」への協力について

シャンティ国際ボランティア会（SVA）現地スタッフからのレポート

SVAカンボジア事務所
コーディネーター
石塚　咲

チョムリアップスオ（クメール語で「こんにちは」）。SVAがカンボジア王国の幼児教育事業を開始してから6年が経過し、これまで約50の幼稚園の環境改善、現職の先生、幼児教育に関わる教育行政職員等に対し『遊びや環境を通した学び』の普及と実践を支援してきました。昨年にはバッタンバン市内の幼稚園に、幼児向け図書館を併設した園舎の増設といったハード面の支援も実施しています。

現在の事業活動の一つとして「天竜厚生会チームカンボジア」と協力して取り組んでいるのが、平成30年に改訂された幼稚園カリキュラムに盛り込まれた『遊びや環境を通した学び』（前事業の結果、盛り込まれたと言っても過言ではありません）を実践するための教員向けガイドブック3種（場づくり、読み聞かせなどのおはなし、教材作成）の作成です。これは、カンボジアの幼稚園ではまだ浸透していない遊びや環境を生かした幼児教育をカンボジアの先生に分かりやすく伝え、実践に結び付けていくためのものです。最終的には教育省の公式な補助教材として、カンボジア全国の先生に活用してもらうことを目指しています。現在は、場づくりガイドブックの作成が一段落着いたところです。チームカンボジアの皆様には、本来であれば現地に赴き、直接指導やモニタリングをしていただくはずでしたが、渡航が困難な状況が続いているため、オンライン会議の回数を増やしガイドブック作成への助言や日本での実践例の紹介などをお願いしています。

令和3年2月には教員養成校の附属幼稚園で、ガイドブックに掲載する活動例の写真やエピソード収集のため、砂場遊びや、制作などの模擬活動を行いました。折しも養成校の学生の教育実習期間でしたので、学生にも活動の補佐に入ってもらい『遊びや環境を通した学び』のための保育活動を体験してもらいました。砂場遊びでは、砂を固めるのに試行錯誤する子どもたちにヒントをあげたり、子どもたちが作った物に関して質問してみたりと、先生が一方的に教え込むのではなく、子どもたちとの対話を楽しむ様子が見られました。先生の卵たちが、優しいまなざしで楽しそうに子どもたちと関わっている様子を見て、とても嬉しくなりました。現在の事業は現職の先生が支援の主な対象ではありますが、今後は様々な方面とも連携していきたいと考えています。

令和3年3月以降、カンボジアでは新型コロナウイルス感染症予防として教育機関の一時閉鎖が続いています（令和3年7月現在）。幼児期の子どもたちが色々な人と関わる場所である幼稚園に通う機会が失われていることに懸念を抱いています。子どもたちが安心して通園できる日が少しでも早く来ることを祈るばかりです。

研修活動の制限による現場の先生方への直接的な支援の遅れ、オンラインや新しい手法での活動実施による焦りや困難を感じることもありますが、臨機応変に事業を進めています。天竜厚生会の皆様にも、引き続きご協力、応援頂けますと幸いです。

▲葉っぱをお金に見立てて、お店屋さんごっこ（模擬活動にて）

創立70周年記念

天竜厚生会が天竜川を見下ろす高台の地に事業を創設して昨年度に70年を迎えました。これまでに創立70周年を記念して、創立70周年記念誌（百々山物語　帰らぬ一匹を追って）の作成、直近10年間の事業展開を記録した「天竜厚生会のあゆみ（平成23年度～令和元年度）」の作成、ご利用者への記念菓子の配布、ホームページでの記念サイトの作成、記念式典の計画等を進めてきました。

創立70周年記念誌「百々山（どどやま）物語　帰らぬ一匹を追って」発行

常務理事兼監査指導部長
木藤　祐二

天竜厚生会創立70周年を記念して、「百々山物語　帰らぬ一匹を追って」（以下、「百々山物語」と表記）を発行しました。この百々山物語は、今後世代交代が進んで行く中で、法人の草創期からの発展を語れる世代の責任として、理事長はじめ役職員、法人OB及びご縁のあった方々のご協力を賜り、法人創立70周年に向けて作成したものです。百々山物語の作成に当たっては、2018年7月、社会福祉の専門紙として社会福祉法人の風土記も手掛ける福祉新聞社のご協力をいただき、横田一氏（福祉新聞社記者）に執筆をお願いしました。

法人草創期の先人の一方ならぬ苦労、情熱、行動力は、天竜厚生会の基本理念につながっています。百々山物語は、こうした法人創設時の福祉マインド、苦労などを記述し、未来への道しるべとして、地域とともに歩んできた社会福祉法人の有り様、存在意義、そしてそこで働くことの誇りを伝えるとともに、それぞれの時代に尽くした人物に焦点をあて、その人物像やエピソードなどをクローズアップしつつ、当法人の拡大、充実の足取りをストーリーに落とし込んでいただくこととしました。執筆に当たり、横田氏には幾度となく天竜に足を運んでいただき、理事長はじめ幹部職員、元幹部職員及び当法人や登場人物とゆかりのあった方々へのインタビュー、現地への取材、当法人の歴史的書物や国会図書館での資料閲覧など、コロナ禍での校正、編集作業等大変ご苦労をお掛けするなかで2年半を費やし発行に至りました。

戦後復興に向け、結核後保護施設として生まれた天竜厚生会が、昭和、平成、令和と70年の時をつなぎ、先人の弛まぬ足取りの中で、現在の天竜厚生会があることを改めて知る一冊となったことを大変嬉しく思います。

百々山物語の作成に当たり、インタビュー、取材に応じていただいた多くの皆様、そして、執筆者である横田一氏をはじめ、編集にご協力をいただいた福祉新聞社に感謝申し上げます。

記念誌タイトル「百々山物語　帰らぬ一匹を追って」：
天竜厚生会発祥の丘陵地一帯は、かつて、百々山（どどやま）あるいは百々原（どどばら）と呼ばれていました。
「帰らぬ一匹を追って」は、当法人の基本理念「九十九匹はみな帰りたれどまだ帰らぬ一匹の行方たずねん」から引用し、地域において、支援を必要とするどんなわずかな存在も見逃すことなく、探し求めていく姿勢を表しています。

▲創立70周年記念誌「百々山物語　帰らぬ一匹を追って」

～記念事業の紹介～

今回は、創立70周年記念誌と記念式典における功労者表彰、企業感謝表彰についてご紹介します。

なお、当初式典で予定していました基調講演については、Web対談に形式を変更することになりました（本冊裏表紙参照）。

引き続き多くの皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

記念式典（功労者表彰･企業感謝表彰）の実施

総務課
係長
森川　正志

これまでに当法人の運営にご理解・ご支援をいただきました皆様に感謝を伝えるべく、当初令和２年度に500名規模の式典を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ今年度に延期をしました。しかしながら、その後も状況が改善されないことから、大規模な式典は中止し、規模を縮小して表彰式のみを執り行うことになりました。

式典は、当法人の運営に永年にわたり多大なるご尽力・ご支援をいただいた表彰対象の個人・企業を招き、当法人研修センターにて令和３年９月10日に行いました。ご出席をいただきました皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

功労者表彰（功績）

内山　等氏（社会福祉法人天竜厚生会 監事　18年２月、学校法人天竜厚生会 監事 14年）
鈴木幸男氏（社会福祉法人天竜厚生会 評議員 13年１月、学校法人天竜厚生会 評議員 13年11月）
志田直正氏（社会福祉法人天竜厚生会 評議員 16年10月、学校法人天竜厚生会 評議員 13年11月）

企業感謝表彰（功績）

矢崎エナジーシステム株式会社　天竜工場様

（昭和47年10月１日　障がい者の雇用の創出のため設立した天竜福祉工場の設立当初からガスメーター作業の提供・職員出向による当該事業所の運営協力。平成18年５月1日より当法人が企業内保育所の運営を継続して受託するなど多方面においてご理解とご協力をいただく）

遠州鉄道株式会社様

（昭和49年11月１日　本部敷地内に停留所が設置され定期バスの運行が開始。以来、現在に至るまで天竜厚生会のご利用者、ご家族・ボランティア及び職員、また、近隣の病院、学校を含め多くの方々の足として、路線の存続にご理解とご協力をいただく）

▲集合写真

前列　左：内山　等氏　　中央：山本理事長　　右：鈴木幸男氏
後列　左：矢崎エナジーシステム株式会社　天竜工場長　谷下勝義氏
　　右：遠州鉄道株式会社　取締役社長　斉藤 薫氏
※志田氏欠席

園芸活動の畑が増設されました（しらいとデイサービスセンター）

かねてよりご利用者の方々に好評がある園芸活動を更に充実させるべく、この度、施設敷地内の空き地を畑へと開墾させていただきました。毎年とうもろこしやじゃがいも等の種まきや苗植えを行い、収穫、簡単なクッキング、試食会をご利用者の方々と一緒に行っていました。今までは畑の規模が小さかったため園芸活動は限定的な活動でしたが、新しい畑ができたことで活動期間が広がります。新しい畑で「今まで植えていない野菜を植えよう」や「早く苗植えて収穫したい」など、ご利用者から期待の声が上がり、盛り上がっています。これからご利用者の方々と、どんな野菜を植えるのか我々職員も楽しみです。

トウモロコシの種植え
収穫が楽しみです♪

きぬさやの収穫
たくさん収穫
できました！

七夕祭りの開催（赤松寮）

思い思いの願いごとを
短冊に書いて
飾りつけを
行いました

赤松寮では毎年7月にご家族をお呼びし、七夕祭りを開催しています。昨年、今年と、新型コロナウイルス感染防止のため、大変残念ではありましたが、ご利用者と職員のみでの開催となりました。

短冊に思い思いの願いごとを書き、「笹の葉さ～らさら♫」と歌いながら飾りつけを行い、おやつにたこ焼きを食べ、楽しい時間を過ごしました。

来年は、新型コロナウイルス感染症が終息し、ご家族と一緒に楽しい時間を過ごすことができることを願っております。

おやつのたこ焼きです。
美味しく食べました！

皆様に支えられて50周年！（赤石寮）

オリジナルムービーを上映し、懐かしいイベントの思い出をご覧いただきました！

開設当初からのご利用者の皆様に表彰状をお渡ししました！

赤石寮は、令和3年5月1日に開設50周年を迎えることができました。開設以来、地域に根差した支援を継続することができたのは、皆様方の温かいご支援とご指導の賜物でございます。心より厚く御礼申し上げます。

開設記念日となる5月1日には、開設時よりご利用いただいてるご利用者の表彰、50周年記念で作成したオリジナルムービーの上映会を実施致しました。また、50周年記念誌の作成を、現在進めております。記念誌の完成、50周年を迎えたご利用者の様子等、改めてお知らせさせていただきます。

今後とも赤石寮をよろしくお願い致します。

作業療法士と機能訓練しませんか！（しんぱらの家デイサービスセンター）

個別機能訓練の風景です。

作業療法士の五反田貴美です。ご利用者の個別機能訓練に携わらせて頂いております。よろしくお願いいたします。

しんぱらの家デイサービスセンターでは、作業療法士を採用し、令和2年11月より一般型、認知症対応型共に個別機能訓練を実施するようになりました。個別機能訓練を希望されるご利用者に対して、作業療法士が1対1で関わります。ご利用者やご家族に現在自宅で困っている事、こんな事ができるようになりたい等々、事前に個別訓練のご要望をお聞きし、訓練内容に反映させています。また、ご自宅に伺い、玄関付近や宅内の段差や手すりの等の状況を把握し、個別訓練の内容に活かすようにしています。

ご利用者やご家族からは、ご好評をいただいております。

デイサービスで個別機能訓練を希望されているご利用者がおりましたら是非ご紹介下さい。

お問い合わせ先／しんぱらの家デイサービスセンター：☎053-584-1077

職員春季研修（コロナに負けぬ質と専門性を求めて）

子育てセンターかきのみ
園長
山岸　さとみ

子育て部門では、保育の質の向上や専門性を高めることを目的とし、5月29日（土）に全保育職員を対象とした春季研修を行いました。今年度の春季研修は1日の開催を予定していましたが、浜松市にて「感染拡大警戒宣言」が発令されたため、半日の研修に変更しての実施としました。コロナ禍での研修となるため、各園内でも数か所に分かれ、リモートでの研修となりました。

当法人の教育・保育理念「感性豊かで生きる力をそなえた子どもを育てるために」の中の「生きる力」は、乳幼児期に育てておくべき力となっています。研修では、生きる力を育むために必要となる「親子の関わり」について、より専門的な知識を得て、教育・保育や保護者支援に繋げられるよう常葉大学子ども健康学科教授柴田俊一先生に「愛着を育てる関わり」について講義をいただきました。

講義の中で、「愛着」とはある特定の他者との間に形成される情緒的きずなであり、生涯に渡る人間発達において重要な心理的意味をもつ関係性とされるというお話がありました。「愛着」は乳児の時から形成され、その子の人生に大きく影響するものであり、大切であることを再確認する機会となりました。

「愛着」が育つことによって、子どもたちは人生の中で人と関わり生きていく事が喜びになります。毎日子どもと接する中で「愛着」をどのように育てていくか、ご家族と共に考えていくことも私たちの役割です。子どもたちが生きていくことに喜びを感じながら毎日を送れるよう、子どもの応援団として学びの機会を大切にし、教育・保育に精進していきます。

▲研修受講の様子

相談支援事業所きずなの移転について

相談支援事業所きずな
主任　ソーシャルワーカー
那須　将司

相談支援事業所きずなは、平成26年４月から指定特定相談支援事業、平成27年４月から指定児童相談支援事業、平成29年４月から指定一般相談支援事業を行い、障がい児者を対象に相談支援をしています。また、平成30年より静岡県から高次脳機能障害支援拠点事業を受託しています。

令和３年４月１日より、法人内の事業所内保育所として使用されてきた旧おやまの保育園へ事業所を移転し、天竜区で唯一の計画相談支援事業所となりました。移転後に来所された多くの相談者からは「広くて良い雰囲気ですね。」とお言葉をいただいております。面談をする環境としても大変落ち着いた雰囲気となっており、安心してご相談いただけるのではないかと思います。また、ミーティングや事業所内での事例検討なども充実した環境で行うことができています。

私たちは天竜区に事業所を構えることで、天竜厚生会の職員の使命として、支援の届きにくい地域に積極的に足を運び、困っている人たちが気軽に相談できる身近な存在となっていければと考えています。

また、計画相談支援事業、高次脳機能障害支援拠点事業を通して、私たちの事業所や天竜厚生会の取り組みを法人内外の関係者をはじめ、地域の皆様にも知っていただけるよう尽力してまいります。皆様、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

▲相談支援事業所きずな新事務所

お問い合わせ先
相談支援事業所きずな：☎053-583-1148

委託事業から繋がった地域の企業 “物づくりの楽しさを教えていただいています”

地域福祉課
ソーシャルワーカー
芦澤　裕介

「ふじのくに学びの心育成支援事業（以下、子ども合宿）」は令和2年度で受託して４年目を迎え「静岡県生活困窮者等就労準備支援事業（以下、就労合宿）」は３年目を迎えました。令和2年度は新型コロナウイルスの感染が収束しない中での実施となりましたが、多くの方々が事業の目的を理解してくださり実施することができました。今回はご協力していただきました企業を１つご紹介いたします。

こども合宿、就労合宿のプログラムとして、毎年「木工体験」を行っています。木工体験は、「仲間と協力し、使う人のためを思って作り、達成感や自己有用感を高める」ことを目的に行っています。講師は、浜松市天竜区上阿多古に事業所を構える、「ひかべ家具製作所」の日下部善昭様にご協力していただきました。日下部様には事業を受託した平成29年度からご協力していただいており、日下部様のご指導のもと天竜産のヒノキを使ったベンチ・テーブルを各合宿の参加者が製作し、当法人の子育てセンター等に寄贈をしてきました。寄贈したベンチ・テーブルは子どもを始め先生方、保護者の方からも大変好評で、子どもが安全に、長く使えるようにと様々な手間を加えて製作しています。

「ひかべ家具製作所」の家具は全てがオーダーメイドであり、メンテナンスをしながら長く使ってほしいとの思いで一つひとつ製作されています。日下部様と様々なお話をさせて頂く中で、「今の世の中は、物であふれており、壊れたら買い替える文化を変えたい」との思いもお話してくださいました。

また、日下部様は「NPO法人ブッダ基金」の活動も行っており、ご自身の技術を活かし、ネパールの学校で使う長机や長椅子を現地の子どもたちと製作し「物を大切に使うこと、物づくりの楽しさ」を伝える活動もされています。

合宿に参加する子どもたちには、家具職人と一緒に作業することで、物の大切さや、物づくりの楽しさを肌で感じ、将来の職業を考える際のきっかけになってほしいと思います。今後も子どもの合宿により多くの方々に参加いただき、仲間と協力しながら物づくりの楽しさを感じてほしいと思います。

最後に事業にご協力・ご理解していただいております皆様に感謝申し上げます。

▲「ひかべ家具製作所」と日下部様

▲ベンチ製作の様子

▲合宿参加者が製作したテーブル

仕事の魅力紹介

法人全体に目を向ける仕事

経営企画課
事務員
堀口　信

私は清風寮でケアワーカー業務を３年間勤めた後、経営企画課に配属となり今年で２年目となります。当課は課長１人、課員２人で本部事務所の２階で業務を行っており、法人がより良い経営をしていくために法人全体の経営状況を分析したり、他法人と比べるなどして各事業所の実績把握や課題発見等に努めております。

業務はルーティンワークがある程度ありますが、自分たちでやるべきことを考えて仕事をすることも多く、経営層や管理職の方々、各事業所に有益な情報を届けてより良い経営や運営の材料にしていただくことを意識しています。そのため、幅広い知識を有することや見やすく分かりやすい資料を作る力が求められます。

また業務上、経営層や管理職の方々、全ての事業に接するため、多くの考え方を学ぶことができます。これらが当課の魅力であり、同時に大変な部署でもあると感じています。

昨年度は異動初年度で学ぶことがとても多く本当に大変でしたが、上司にも恵まれ楽しく仕事をすることが出来ました。今後も引き続き多くのことを学びつつ、ケアワーカー時代の経験も生かして、社会福祉法人の経営に対する自分なりの視点や意見を持ち、提案したいと考えています。

▲経営企画課、常務理事での打ち合わせの様子。
※撮影のため、マスクを外しています。

▲現在はコロナ禍のため活動できていませんが休日のリフレッシュ方法は仲間たちとのサッカーです。
※平成30年8月撮影

「あたたかい場所」であるために

子育てセンターしんぱら
保育教諭
金子　佳代子

令和３年度、子育てセンターしんぱらの教育・保育目標は「みいつけた」です。子どもたちの発見を大切にし、豊かな体験ができるよう、考え、見つけ、実践していくために皆で考えこの目標を掲げました。

子どもたちは毎日たくさんの発見をし、目を輝かせ、心が動く瞬間を私は何度も目にします。0歳児から5歳児まで年齢の違う多くの子どもたちと過ごしていますが、一人ひとりが様々な方法でその瞬間を表現してくれます。言葉でその感動を伝える子、そこから目を離さずじっと見つめる子、保育教諭の手を引き指差しをして教えてくれる子、興奮しながら友だちに伝えている子…その瞬間を一緒に驚いたり、喜んだり、考えたり、目と目を合わせたりと共感し心を通わせることで、子どもたちの興味は更に深まり、遊びが広がります。子どもたちの多くの力に驚かされると共にこの仕事の魅力を感じる瞬間でもあります。まだまだ見逃しているサインも多くあると思いますが、そのような一人ひとり異なるサインに気付ける保育教諭でありたいと思っています。

私は現在は、主幹保育教諭として役割を担い、よりよく円滑な教育・保育を行うために、全クラスの話し合いに参加し、PDCAサイクルを意識した取り組みを行っています。業務の効率化等、課題も多くありますが、悩みながらも周りの職員に助けてもらいながら業務に励んでいます。

私事ですが、仕事と子育ての両立に悩み、５年前に一度退職を決意し、３年前に再雇用制度にて復職しました。一度離れたことで、仕事に対しての楽しさややりがい、感謝の気持ちがさらに強くなりました。子どもたちの大切な乳幼児期を一緒に過ごすことに、保育教諭としての誇りを持ちつつ、園が「あたたかい場所」として子どもたちの心にずっと残るよう、これからも“子どもたちにとって”を念頭に置き、より一層精進してまいります。

▲畑でたんぽぽみつけたよ

苦情受付の公表について（定期報告）

原則として、令和3年4月～令和3年7月までに、当法人にいただいた苦情等は次のとおりです。
貴重なご意見ありがとうございました。

◆受付件数　　法人全体：78件（うち公表可 51件）

◆主なサービス種別ごとの受付代表事例

≪障がい者関係事業≫　18件（うち公表可 11件）

施　設　名：	赤石寮	是正日：令和3年5月24日	
件　　名：	緊急連絡先の書類の記載間違いについて		
ご意見／ご要望の内容：	ご家族より、「今回送付された緊急連絡先の書類に、他者の連絡先が書かれていた。自分の連絡先も、他者の書面に載ってしまっているのではないかと心配であるため、確認してほしい。」との話があった。		
対応内容：	受付時に謝罪し、再発防止を徹底する旨をお伝えしました。書類を作成する際、手打ち入力で記録システムからの転記作業を行ったため、記載ミスが生じました。また、作成後の確認作業も名前のみで確認不足がありました。今後は、転記作業の方法変更と職員間で確認作業の内容・方法を再確認し、徹底してまいります。申立者には、後日改めて是正内容の報告と謝罪を行い、「お願いします。」とのお言葉をいただきました。		

≪高齢者関係事業≫　18件（うち公表可 12件）

施　設　名：	百々山	是正日：令和3年4月5日	
件　　名：	床屋利用後の不揃いな髪型について		
ご意見／ご要望の内容：	ご家族より、「床屋に行ったようだが、耳のあたりが不揃いで本人がかわいそうである。本人の体調もあり、長時間床屋で過ごせないかもしれないが、本人に似合う女性らしいショートカットに整え直してほしい。」と話があった。		
対応内容：	申立者に謝罪し、散髪をあらためて行うこと、今後はカットの要望を聴き取り、その際はヘアカタログ等を用いてイメージの共有を図り、対応していく旨をお伝えしました。また、散髪後は担当ケアワーカーが髪型の確認を行い、必要に応じて床屋に再依頼していくこととしました。入所時にも、床屋の利用頻度だけでなく具体的な意向の確認を行い、職員間で共有いたします。		

≪地域福祉関係事業≫　20件（うち公表可 15件）

施　設　名：	地域包括支援センターしんぱら	是正日：令和3年6月18日	
件　　名：	電話受付時に受付者の名前を名乗らないことについて		
ご意見／ご要望の内容：	介護支援専門員より、「電話に出た職員が名前を名乗らないので困る。以前も名前を名乗るように言ってあったが、改善されていない。」と電話があった。		
対応内容：	その場で改善することを伝え、謝罪いたしました。以前、法人内で「電話受付の際、個人の名前を名乗ると悪用される可能性があるため、名前は名乗らない」という話があり、その後は、「包括支援センターしんぱらです。」と対応しておりました。今回、法人内で明確なルール化はされていないことを確認しましたので、今後は、責任の所在を明らかにする意味でも「地域包括支援センターしんぱら○○です。」と名前を名乗ることを徹底いたします。		

≪子育て関係事業≫　13件（うち公表可 8件）

施　設　名：	子育て支援課	是正日：令和3年5月13日	
件　　名：	おまかせシステムの使いづらさについて		
ご意見／ご要望の内容：	保護者より、「おまかせ保育システムにおいて朝の体調連絡の登録ができたのか分からない。事前に休みを入力しても、いつの分が登録されているか分からないため、システムの仕様を変更してほしい。」と苦情申立フォームより連絡があった。		
対応内容：	システム会社に本件を伝え、仕様の変更が可能という回答があったため、ご意見をいただいた件が解消されるように仕様の変更を行いました。また、保護者へ改訂内容を文書で配布するとともに、申立者には事前に対応方法についてメールを送信いたしました。		

受け付けた苦情等は、記載した事例の他にも、以下の天竜厚生会ホームページに掲載しております。
★URL：http://www.tenryu-kohseikai.or.jp/koukai/complaint/index.html

【お問い合わせ】
監査指導部 監査指導課
TEL:053-583-1424

善意の皆さま

■ご寄付■■■■■

ありがとうございます
◎ご厚意に沿うべく、大切に活用
　させていただきます。

★法人本部
⋮《5月》
⋮　株式会社坂田電気工業所様
★登呂の家
⋮《5月》
⋮　森　昇様
★しらいと
⋮《6月》
⋮　望月　森明様
★浜名
⋮《7月》
⋮　原田　安弘様

■ご寄贈■■■■■

ありがとうございます
◎ご厚意に沿うべく、大切に活用
　させていただきます。
★美浜
⋮《5月～7月》
⋮　坂井モーター株式会社様
⋮　宮崎建設株式会社様
⋮　明治安田生命保険相互会社浜松支社様
⋮　袋井市立袋井南中学校　福祉委員会様
★天竜厚生会診療所
⋮《5月》
⋮　株式会社坂田電気工業所様
★相談支援事業所きずな
⋮《5月》
⋮　静岡トヨタ自動車株式会社様
★天竜ワークキャンパス
⋮《7月》
⋮　株式会社森修焼様
★天竜厚生会城北の家
⋮《7月》
⋮　ピジョンタヒラ株式会社東京営業所様
★子育てセンターきぶね
⋮《7月》
⋮　橋本　啓一様
★子育てセンターかきのみ
⋮《7月》
⋮　橋本　啓一様
★子育てセンターみゅうのおか
⋮《7月》
⋮　橋本　啓一様

■ボランティア■■■■■

◎貴重なお時間を頂きありがとうございました。

＝施設サービス事業部＝

★浜名
⋮　老川　裕美様
⋮　野口　めぐみ様
★あかいし学園
⋮　坂口　由衣様
★清風寮
⋮　鈴木　富江様
★翠松苑
⋮　大野　博志様
⋮　赤佐6区花の会様
⋮　長崎　邦子様
⋮　戸田　さかゑ様
★しんぱらの家
⋮　有谷　まり子様
★天竜厚生会城北の家
⋮　吉田　たい子様
★しらいと
⋮　佐野　孔彦様
⋮　青山　秀子様
⋮　笠井　喜美子様
★くんまデイサービスセンター
⋮　熊幼稚園様
★天竜厚生会浜松デイサービスセンター
⋮　南部マジック会様
⋮　藤崎　真紀子様

＝地域福祉事業部＝

★地域福祉課
⋮　天竜高等学校　ボランティア部様

＝子育て支援事業部＝

★子育てセンターすぎのこ
- 太田　正人様
- 岡部　かおり様
- 伊藤　美奈子様
- 西田　躬穂様
- 老川　嘉子様
- 安達　康子様
- 市川　清子様
- 小倉　啓子様
- 鈴木　未知代様
- 嶋　京子様
- 石山　千鶴様

★子育てセンターやまびこ
- 島　全良様
- お話の会様
- 小倉　啓子様

★子育てセンターきぶね
- 荻野　覚様
- 荻野　宗子様
- 鳥倉　大知様
- 田原　さやか様
- 桑原　栞菜様

★子育てセンターしばもと
- 食育の会様

★子育てセンターしんぱら
- 竹内　博之様
- 長崎　邦子様
- 鈴木　静代様
- 折金　早苗様
- 田邉　定弘様
- ひらまつファーム様
- 木下　和明様

★子育てセンターなかぜ
- 河合様
- 北島　忠明様
- 山岸　大輝様
- 畑　順平様
- 杉山　美穂様

★子育てセンターかきのみ
- 内山　啓子様
- 太田　礼子様
- 大橋　正和様
- 武田　哲夫様

★子育てセンターみゅうのおか
- お話の会様

★子育てセンターさやのもり
- 橋口　平様
- 鈴木　敏男様
- 梅田　昭好様
- 伊藤　公一様
- おはなしのたね掛川様
- 掛西学園ボランティア様

★子育てセンターひだまり
- 園児保護者様
- 落合　賢次様
- 鈴木　富雄様
- 鈴木　陽子様
- 鈴木　金雄様
- 杉谷南地区・園児保護者様
- 渥美　春夫様
- 渥美　和人様

★子育てセンターみなみしま
- 鈴木　美帆様

★子育てセンターとみがおか
- 鈴木　敏彦様
- 鈴木　忠男様
- えほんを楽しむ会様
- 井口　君夫様
- 高木　正樹様

★すずかけっこ保育園
- おはなしのたね掛川様
- 福田　幸子様
- 鈴木　由郎様

★なぎさ保育園
- 石田　正明様・他1名様
- 静岡県子ども読書アドバイザー　青島　智深様
- 河辺　勝彦様
- 人形劇どんぐり様

★やまびこ児童クラブ
- 島　全良様

★天竜厚生会ちゃるか
- 勝又　香里様

★天竜病院ひまわり保育園
- 渡邉　留美様
- 坂口　公司様

運動広場で体を動かし リフレッシュしてみませんか？

障がいのある人のスポーツ振興と福祉の増進を図る場として利用されてきた浜松市天竜障害者体育館の跡地を運動広場として活用することになりました。運動広場はご利用者・ご家族・地域の方々に利用してもらうため、紅葉・桜・オリーブ・芝桜を植え、休憩できるベンチを設置しました。散歩途中の一休みや日々のリフレッシュの場としてぜひご利用ください。

▲運動広場概要図

▲構内図

ご利用についての問い合わせ先
福祉サービス課　☎053-583-1123

天竜厚生会創立70th記念対談

経済学　×　福祉

東京大学名誉教授
神野 直彦／Naohiko Jinno

天竜厚生会 理事長
山本 たつ子／Tatsuko Yamamoto

天竜厚生会が創立70周年を記念して作成した「百々山物語」。百々山物語に綴られた天竜厚生会の70年の歴史と社会福祉の変遷を神野先生の経済学で紐解いていただくとともに山本理事長との対談から「社会福祉の未来の使命」を展望していきます。

天竜厚生会ホームページにて
近日公開

詳細や最新情報はホームページをご覧ください。
天竜厚生会　対談動画　検索

お問い合わせ先
社会福祉法人天竜厚生会 総務部 総務課
☎053-583-1115

社会福祉法人　天竜厚生会　〒431-3492 浜松市天竜区渡ヶ島217-3　TEL.053-583-1115　FAX.053-583-1224

ISO9001 自己適合宣言　Copyright © Tenryu-kohseikai All Rights Reserved.　※本紙は再生紙を使用しています。